

# KIPPUR

MICHEL PROPPER & AMOS GITAI present  
starring: IRON LEVO TOMER RISZO URI RAN KAUZNER  
YORAMI HATTAH JULIANO MERR GUY AMIR RAN KACHINSKY KOHI LIME  
screenplay by AMOS GITAI & MARIE-JOSE SANSELME  
MIP PRODUCTIONS, AGM HANAMOT, LE STUDIO CANAL+, ARTE FRANCE CINEMA, R&C PRODUZIONI (ITALY) with CANAL+, TELAD & TELAD



—イスラエルの鬼才 アモス・ギタイ監督作品—

# キプールの記憶



真言  
実葉  
の戦  
争  
も  
で  
き  
な  
い

2000年カンヌ国際映画祭正式出品作品  
2000年東京フィルメックス / アジア[新・作家主義]映画祭 特別招待クロージング作品  
監督:アモス・ギタイ / 脚本:アモス・ギタイ、マリー＝ジョゼ・サンセルム / 撮影:レナート・ベルタ / 出演:リオン・レヴォ、トメル・ルソ、ヨラム・ハタフ、ウリ・ラン、クロイツナー  
2000年(イスラエル)フランス映画祭 / 1189  
後援:イスラエル大使館 Culture 配給・宣伝:アルシネテラン <http://www.alcine-terran.com>

# 海外からも絶賛の嵐

かつて誰もフィルムにおさめたことのない手法で、戦争が描かれている。

—ル・ヌーヴォー・シネマ誌—

戦闘シーンも敵もいない戦争映画。あるのは戦場の顔、手、そしてシルエット；その演出は、我々を無理にその世界へ引き込むことはしない。

—ル・ヌーヴェル・オブセルヴァトゥール誌—

実証言やドキュメンタリーのような力強さを持った、素晴らしく思いがけない映画

—ル・ジャーナル・ドゥ・ディマンシュ紙—

戦争の感覚的体験を共有させようという試みは、戦争映画に特有の現実離れた常套手段とは無縁のものである。

—ル・モンド紙—

今なお進行中の紛争を、美しい映画を作るという口実や映像作家の個人的な良心の呵責といったものすりかえていない、知的な戦争映画。

—リベラシオン紙—

『フルメタル・ジャケット』以来、最も重要な戦争映画。

—アンロックアップチブル誌—

不必要に人目をひくような仰々しい効果をすべて排除した素晴らしい演出、俳優たちの特異な演技。簡単には意識を取り戻せない程、初めから終わりまで激しく簡素な作品。

—ル・バリジャン紙—

叙事詩風の手法ではなく、ひっそりとした日常が描かれる。そこには熱狂、混沌、無秩序、恐怖といった人間としての戦争がある。

—ル・フィガロ紙—

争うのではなく、愛し合う戦争映画。

—マリアヌス誌—

## キプールの記憶

言葉にさえもできない真実の戦争

# KIPPUR

### 待ちわびたイスラエルの鬼才アモス・ギタイ、ついに日本登場！

フランス・フォード・コッポラやサムエル・フラー、ベルナルド・ベルトルッチ、フィリップ・ガレルらから絶大な支持を受け、また海外はもとより日本でも特集上映が生まれ熱狂的なファンが多い、現代イスラエルを代表する鬼才アモス・ギタイ。本作は、1973年のヨム・キプール戦争（第4次中東戦争）で乗っていたヘリコプターが撃ち落され九死に一生を得たギタイ監督が、イスラエル映画としては破格の8億円の製作費をかけて、自らの強烈な記憶を長年の思いの末に映像化したものである。

そこに描かれるのは、従来の戦争映画にありがちな戦闘シーンの応酬といった類のものではない。それは、自ら敵に銃を向けることはないものの、前線で戦争という悪夢に直面する救急部隊に配属された人々の物語であり、無秩序の中で感じる焦燥感や無力感、嫌悪感、疲労感、そして何より、錯乱してしまうほどの恐怖に苛まれた人間としての戦争である。ギタイ本人の実体験に基づくだけあり、ドキュメンタリーさながらの力強さを持つが、だからと言って個人的なセンチメンタリズムに浸っているわけではない。それは戦争の感覚的体験を観客に共有させようとするものであり、実際のイスラエル軍から借りた戦車やヘリコプターを用いて、実戦さながらに戦場を襲う爆破シーンは圧巻である。アラン・タネールやダニエル・シュミットの撮影で有名なレナート・ベルタの力も得て、こうして、かつて誰も描こうとしなかった戦争のリアルな姿が描かれた本作は、時に観ているものをも悪夢へと突き落とすだろう。

劇場映画としては日本初登場となるギタイ監督の渾身作が、今秋ついに日本上陸となる！

2000年カンヌ国際映画祭正式出品作品

2000年東京フィルメックス/アジア[新・作家主義]映画祭 特別招待クロージング作品

監督:アモス・ギタイ/脚本:アモス・ギタイ、マリー＝ジョゼ・サンセルム/撮影:レナート・ベルタ/出演:リオン・レヴォ、トメル・ルツ、ヨラム・ハタブ、ウリ・ラン・クロイツナー

2000年イスラエル＝フランス＝イタリア/118分/35mm/カラー/1:1.85フィズタサイズ/ドルビー-SRD/後援:イスラエル大使館

配給・宣伝:アルシネテラン <http://www.alcine-terran.com>

ヨム・キプール戦争（第4次中東戦争）

1973年10月6日、ヨム・キプール（贖罪の日）に始まったイスラエルとエジプト・シリアらアラブ連合軍との戦争。奇襲攻撃を受けたイスラエルは、大量の兵を投入して反撃を開始し戦闘が激化。当初ソ連はアラブ側を、米国はイスラエルを支援したが、米ソ両国は戦争解決への合意に達し、イスラエル・アラブ双方も国連の停戦決議案を受諾、戦争は17日間で終結した。なおこの戦争の影響により、日本では第1次石油危機（オイル・ショック）が起こった。

# 2/23(土)より衝撃のロードショー!

3/15(金)まで

12:00 2:15 4:30 6:45 ※ただし、2/27(水)の6:45の回は休映

アモス・ギタイ監督特集連続モーニング上映 一般1200円、学生・シニア1000円  
2/23(土)～3/8(金) (予定) ★「キプールの記憶」へとつながるヨム・キプール戦争の証言などの記録「戦争の記憶」他、ギタイの傑作4本上映! 上映作品/「戦争の記憶」1995年、「エルサレムの家」1998年、「オレンジ」1998年、「カドッシュ」1999年

特別鑑賞券1500円

好評発売中!

劇場窓口でチケットお買い上げの方に  
先着50名様にはポストカードプレゼント!

地下鉄中央線「九条駅」6番出口徒歩2分

シネ・ヌーヴォ

TEL.06-6582-1416  
シネ・ヌーヴォのホームページアドレス  
<http://terra.zone.ne.jp/dnenuouveau/>

